

生体歯科補綴学分野

教授 魚 島 勝 美

1. はじめに

当分野の前身は歯科補綴学第二講座（いわゆる第二補綴）で、教授は草刈玄先生でした。草刈先生が平成12年にご逝去後、大学院重点化に伴って講座が分野となり、教授に野村修一先生が就任されて分野名が加齢歯科補綴学分野となりました。そして平成20年、河野正司教授ご退職後、しばらくの間空席となっていた旧歯科補綴学第一講座の教授ポストを埋める形で野村先生がご異動となり、魚島が当分野の教授となりました。この時、野村先生ご担当の分野名を包括歯科補綴学分野、私が担当する分野名を生体歯科補綴学分野と改めました。つまり、現在は旧第一補綴が包括歯科補綴学分野、旧第二補綴が生体歯科補綴学分野となっているわけです。

この度の新潟大学歯学部創立50周年にあたり、当分野も、その前身を含めてほぼ同じ歴史を重ねたこととなります。この間、講座、分野が従事してきた研究内容には大きな変化があり、現在は補綴治療の背景にある生体反応を生物学的に捉えようとする研究を行っていますが、臨床での担当は補綴全般をカバーし、教育担当はいわゆるクラウンブリッジを中心としているという点ではほとんど変わっていません。これまでいわゆる第二補綴で教育・臨床・研究に身を投じてきた多くの先輩の先生方に敬意を表し、ここに改めて御礼を申し上げると共に、ここに当分野の現状をご紹介します。今後に向けた新たな決意へのきっかけとしたいと思います。

2. 分野構成員

教授：魚島 勝美

准教授：加来 賢

講師：秋葉 陽介（総括医長）

助教：青柳 裕仁、秋葉 奈美、長澤 麻沙子、マルセロ ロサレス

日本学術振興会特別研究員：井田 貴子

医員：江口 香里

大学院：ムバラク スリマン（2年目、スーダン国費留学生）、水嶋 一尊（2年目）、高 昇将（1年目）、高岡 由梨那（1年目）、ファラ アルオマリ（1年目、ヨルダン国費留学生）

レジデント：宮 福子

非常勤講師：高野 遼平

3. 担当業務

（1）教育

3年次：

平成14年に年次進行で行われたカリキュラム改編に伴い、それまで当分野が担当していた歯型彫刻実習を、科目としての歯の形態に組み込み、口腔解剖学の講義および歯の形態にかかわる他分野の講義と平行して行う形で担当しています。また、単に1本の歯の彫刻にとどまらず、歯列の中での歯冠形態の回復も行っています。

4年次：

以前クラウンブリッジとして行っていた実習は、現在歯冠修復学と欠損補綴学Ⅱに分割し、歯冠修復学はインレーを担当するう蝕学分野と共に、また講義と並行する形で担当しています。欠損補綴学Ⅱではブリッジに関する実習を行っています。これらの講義実習の内容は平成29年度から一新し、ウェブコンテンツを用いた反転授業、少人数グループによるSGD（Small Group Discussion）といった手法を用いて、より臨床に即したトレーニングができる形態にする予定です。また、今後は避けて通ることができないデジタルデンティストリーに関する内容も取り入れる予定です。

5年次：

5年生の前期には、本学が全国に先駆けて開発した、総合模型実習を担当しています。この実習は、今年で12年目を迎えており、ひとつの模型にあらゆる歯科疾患を再現し、提供される資料等の情報から、学生が自ら治療計画を立案して進めるものです。また同時期に開講される統合科目Ⅰの

中で9コマを使って行うデンタルインプラントの基礎と臨床のコーディネーターとしての役割も担っています。さらにポリクリでは、臨床実習開始直前に必要であると思われるクラウンブリッジに関する診療技能と知識を教えています。5年次後半には臨床実習が開始され、当分野スタッフも毎日ライターとして現場に立っています。

6年次：

今後予定されているカリキュラム改編に伴い、実際の患者資料を題材とした診療計画立案演習を担当することが決まっています。また、臨床実習終了時の総括評価の一環として、現在大学間共同教育連携事業（文部科学省）で開発している、総合模型を用いた臨床技能評価試験を担当することになっており、今年度11月に本格実施に移行する予定です。

研修医教育：

実際の治療を通して補綴全般に関する臨床教育を行っています。半年間に自ら担当する患者の症例検討を医局員の前で5回行うことを課しており、その他にも本人が希望すれば大学院進学の上で、最短の5年間で補綴専門医の資格が取得できるように配慮しています。

大学院教育：

生体歯科補綴学分野発足以来、主に補綴に関する基礎的な研究を通して学位を取得できるように指導しています。これまでも多くの学会賞をいただき、日本学術振興会の特別研究員に2名が採択されています。また、大学院修了時点で補綴の専門医取得が可能となるように、多くの臨床経験も積めるように配慮しています。当分野のスタッフは合計で大学院科目を4科目開講しています。

(2) 臨床

一般補綴治療はもちろんのこと、魚島が本院インプラント治療部の部長を兼任していることから、インプラント治療も積極的に行っています。また、特色ある専門外来のひとつである歯科金属アレルギー外来も担当し、本院皮膚科との連携の下、多くのアレルギー患者の診断と治療にあたっています。さらに、近年では垂直歯根破折歯の再植治療にも積極的に取り組み、非常に良好な結果が得られています。分野では週に1回の症例検討会を行っており、教室員の診療の質向上にも努めています。

(3) 研究

当分野は補綴治療の背景にある生体反応を、基礎的な手法を用いて解明し、治療の改善につなげることを目的とした研究を中心に行っています。具体的にはデンタルインプラント周囲骨代謝に関する基礎的研究、骨移植に関する基礎的研究、歯根膜に関する基礎的研究、歯科金属アレルギーに関する臨床研究、コラーゲンの臨床的意義に関する研究、生体反応を視野に入れた歯科理工学的研究、歯学教育に関する研究などを行っています。これまでの研究成果は歯学部のホームページに公開しています。

4. その他の活動

魚島が、国際担当副学部長を担当していることから、国際交流に関しても当分野は積極的に関与しています。具体的には海外からの学生やスタッフの受け入れ、週1回の英語によるジャーナルクラブの実施などです。将来的には海外の研究室スタッフとのウェブを用いた合同ジャーナルクラブの開催も視野に入れていきます。また、大学院留学生が本邦滞在中に臨床のトレーニングをする場として、病院歯科外来における国際歯科外来の設置に関しても、中心的な役割を果たしたいと考えています。

5. おわりに

多くの教育関連業務と診療業務をこなしながら、研究を行うことはきわめて困難で、教室員は多忙を極めていますが、今後も当分野の存在が新潟大学歯学部、新潟大学、日本および世界の歯科界に少しでも貢献できるように、一層の努力をして参ります。今後とも何卒厳しいご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。



現在の医局員